

通学路の安全対策

なかむら

中村 たけし

民主党・市民連合



問 京都市府亀岡市で通学途中の児童の列に車が突っ込み、10人が死傷した事故後も、通学時の死亡事故が相次いだことから、平成24年5月に、国から小学校の通学路における緊急合同点検を実施するよう通知されました。その結果、本市においては、対策が必要な箇所が237カ所あり、本年度末までに実施済みとなるのが232カ所、来年度以降に予定されているのが5カ所となっています。

通学路の安全対策は、関係機関・部局が複数あり、それぞれの役割分担があることから、連携し、実行につなげていく仕組みが不可欠です。安全対策について、どのような仕組みを構築し、運用するのか、また、今後どう充実させていく考えなのか伺います。

答 毎年実施する通学路の調査に併せて、歩道や信号機などの状況、冬期間の道路状況などを各学校が調査、点検し、教育委員会としてその結果の報告を受けています。これに加え、本年度から歩道の幅など、道路施設整備などに関する学校からの要望を取りまとめ、関係部局と情報を共有し、教育委員会からも各区土木センターに学校との協議を要請しています。これにより、情報を共有化し、対策に結びつけていくという流れが一步進んだと考えています。今後は、協議の状況などを把握していくとともに、地域の実情に応じた安全対策を推進しているスクールゾーン実行委員会の意見などもより反映できるような仕組みなど、さらに検討していきます。

胃がん対策の強化

ふくだ こうたろう

福田 浩太郎

公明党



問 胃がんリスク検診でピロリ菌感染者を見つけて、除菌療法を実施し、その後は定期的に内視鏡検査を行うことで胃がんで亡くなる方を減少させることが期待できますし、将来の医療費削減にも効果が期待できます。そこで、本市の胃がん対策を、バリウム検診による2次予防から、胃がんリスク検診による1次予防に転換すべきだと考えますが、いかがですか。さらに、若年者は除菌による効果が大きいことから、特に中学卒業時に胃がんリスク検診を行うべきだと考えますが、いかがですか。

答 胃がんの発症予防を目的とする1次予防対策も重要であることから、ピロリ菌感染と胃がんの関連性や除菌の方法などについて、ポスターの掲示やセミナーの開催などにより積極的に周知していきます。また、ピロリ菌感染に着目した胃がん検診については、国の研究成果を注視し、その評価結果を踏まえて、若年層での実施も含め、今後の検診の在り方について検討していきます。

市議会の動き

11月28日に招集された第4回定例会の中から、12月4日、5日の代表質問の主な内容、最終日に可決された議案などについてお知らせします。

なお、代表質問については、ホームページの録画中継でもご覧いただけます。

2017年冬季アジア札幌大会

ささき

佐々木 みつこ

自民党・市民会議



問 冬季アジア大会は、アジア地域における冬季スポーツの発展を目的に開催される総合国際スポーツ大会です。第8回となる札幌大会は、約30の国と地域、参加人数は約1,200人と過去最大規模を想定しています。開催する都市としておもてなしの心を持って準備を進めることが必要です。選手や関係者、観光客の利便性向上のため、競技施設や観光施設においてもインターネット環境を整えることが必要だと考えますが、いかがですか。

答 インターネット環境の整備は、選手や観光客の利便性の向上のために極めて重要です。本年度中に、民間事業者と連携して整備に着手し、利用可能施設を逐次拡大していく予定です。

問 冬季アジア札幌大会は、将来の冬季オリンピック開催へのステップアップとしても大変重要な大会です。大会を成功させることが、将来の札幌での冬季オリンピック・パラリンピックの開催という夢の実現につながっていくものと考えますが、いかがですか。

答 札幌は、1972年の冬季オリンピックをはじめ数々の国際大会を成功させ、ウインタースポーツシティとしての地位を築いてきました。冬季アジア札幌大会はあらためて世界に札幌をアピールする絶好の機会であり、大会の成功が、さらなる大きな国際的なスポーツイベント誘致につながるという好循環を生むと考えています。